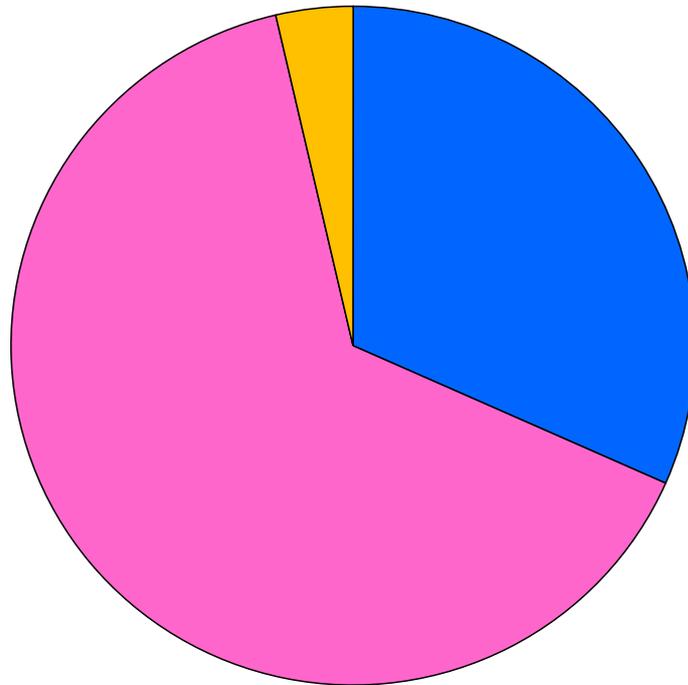


【ライブ配信】ふわりんくる～じょんSD～医療的ケア児
者支援の行方「withコロナ」の暮らし～
属性回答集計

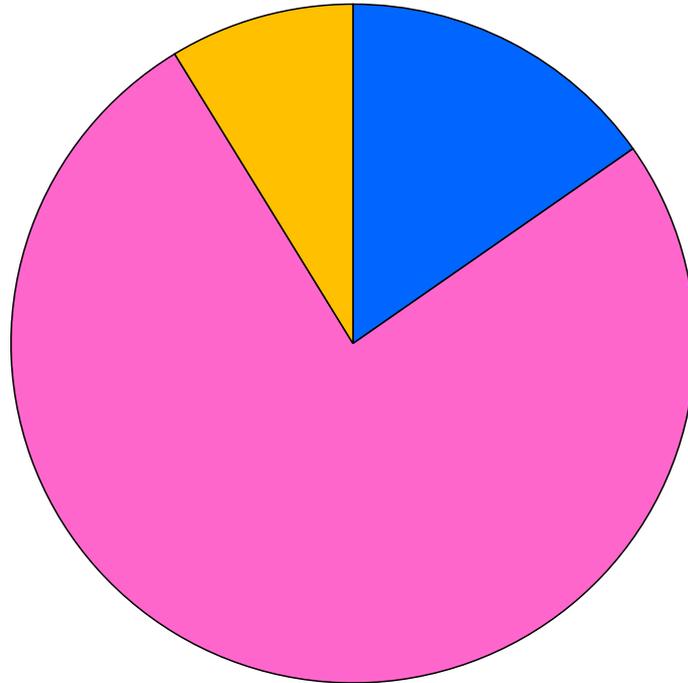
【属性】性別

No	回答	人数	%
1	男性	87	32
2	女性	178	65
3	性別無回答	10	4
合計		275	



【属性】年代

No	回答	人数	%
1	アソシエイト（～34歳）	42	15
2	リーダー（35～59歳）	209	76
3	シニア（60歳～）	24	9
		合計	275



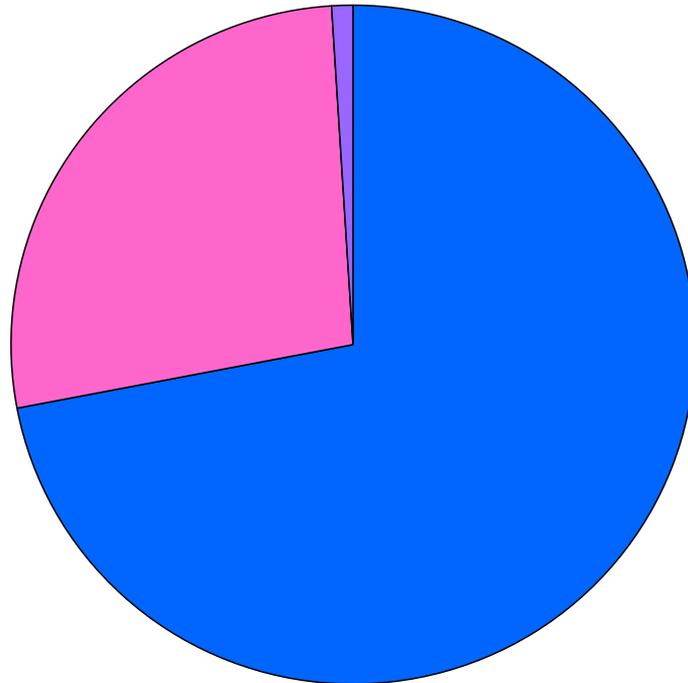
プログラム名 【ライブ配信】ふわりんくる～じょんSD
～医療的ケア児者支援の行方「withコロナ」の暮らし～

単元名 RA

アンケートタイトル 【ライブ配信】ふわりんくる～じょんSD
～医療的ケア児者支援の行方「withコロナ」の暮らし～

質問1 本日のプログラムの内容は、皆さまの仕事や働き方、考え方の参考になりましたか。（択一式）

No	解答	人数	%
1	大変参考になった	70	72%
2	参考になった	26	27%
3	どちらでもない	0	0%
4	あまり参考にならなかった	0	0%
5	参考にならなかった	1	1%
合計		97	



質問2 【第1部「医療的ケア児の新評価基準が子ども達を救う？～その中身と使われ方と～」】 ご意見ご感想をお願いいたします。（自由記述）

【自由記述】

・最後のお言葉「医療で医療的ケアを正しく評価して、医療的ケア児の社会を準備すること。合理的配慮・社会的義務 世の中が変わらないといけない」がとても響きました。私はPT/ITエンジニアとしてできることをしたいと思いましたが、PTとしてできることが果たして当該児に（一）とならないか、また名古屋や愛知県での医療的ケア児の実数を知りたいなど、想いと行動力を掻き立てるきっかけとなりました。本当にありがとうございました

・ 医的ケア児が退院日から福祉サービスを利用できる様になると嬉しいです。

・ 横浜で、特別支援学校卒業後の居場所(生活介護)がなく設立を求めて活動している重症心身障害児の親の会です。私たちの会にも動ける医療的ケア児の仲間がいますので、この子たちがサービスの穴にすっぽりと隠れてしまっていることをいつも憂っていました。今回の診療改定によって通える場所が増える可能性があるという事、とても希望を感じます。別の話ですが、重度心身障害者が生活介護なり、放課後デイサービスなりを利用するとき、休むと事業所に入る報酬が0になってしまうことが問題で重心の子を引き受けてくれる事業者がありません。報酬を多くつけていただいているのはわかりますが、どうしても体調が不安定な重心児・者は休みが多いので採算が合わないとはっきり言われてしまいます。どうぞこの部分も改訂されていきますように課題の共有をよろしくお願いいたします。

・ 新しい判定基準で、必要な支援が必要な方に届くようになっていきますように。勉強になりました。ありがとうございます。

・ 寝たきりの子どもたちよりも動ける子どもたちのほうが「手がかかる」という事実歩行訓練をしている重症児（知的障害あり）とお母さんが、「歩行訓練はしているが、実際に歩けるようになると不安」とおっしゃっていたのを思い出した親としては喜ばしいことだと思っていたのでショックだった

・ 医療的ケア児の新評価基準により重症心身障害児が中心であった評価基準が知的、身体的障害がみられない自分で動ける医療的ケア児に対する評価基準が設けられ、支援の入り方がスムーズになることができることを願っています。肝心なのは行政の担当者がいかに理解でき自薦できるかにかかっています

・ 市町村の役割も大事だと思います。総合支援法では、医療的ケア児について、教育、医療、福祉の連携が問われていますが、市町村はなかなか腰が重いようです。相談支援事業所が地域自立支援協議会で課題を話しあい、市町村に提言し、国の制度以外にも地方でできる、地方にあった細やかなサービスを実現していくことが大事だと思います。あと、医療的ケア児は学校にあがれば、医療行為は看護師が行いますが、看護師が休みの場合は親が付き添うか、放課後等デイサービスを使うかになっています。児童が教育を受ける権利も含めて、考えていく必要があると思います。

・ 新評価基準がどんどん使われて行って欲しいですね！

・ これから事業所を開設するので、参考になりました。

・ ご研究についてもっと聞きたいと思いました。制度として組み込むための取り組みに

感銘しました。ありがとうございました。

- ・NICU退院時より、相談支援専門員に繋がりたいが、実際に福祉事務所に連絡をしても紹介をされることはない。そのため病院から訪問診療、訪問看護に繋がっている現状がある。これが変わっていくことを望んでいる。
- ・様々なプロセスがあつての基準ができたことがよく分かりました。医療、行政側とのやりとりでエビデンスになりますし、現場に還元されることだと思います。ありがとうございました。
- ・よりよく実現しますように祈ります。関係の皆様のご苦勞に感謝します。
- ・新評価基準ができたことで、退院後早期に障害福祉サービスを利用することができ、医療的ケア児の居場所が広がって、社会が変わっていくことを期待します。
- ・相談支援専門員をしていますが、地域の医療的ケア児を受け入れてくれるところがなく、家族も困っています。今後そのような今の社会が変わっていくことを願いたいです。
- ・医療的ケア評価システムのモデル(案)について、今後【IV家族と介護者の背景】を研究されるとのことですが、そこでケア量の推計にどのように位置づけられるのか気になります。本人に対して必要なケアの評価と求められる外部からの生活支援の評価は分けられるべきではないでしょうか。
- ・ボランティアに目の前の人に注力しても、多くの人は助けられない。大きな枠組みをつくり、支援の対象者としてあてはめ、仕組みをつくることで持続可能になり、より多くの方が助けられるのだと改めて思った。
- ・医療的ケア児の増加の背景に、医療システムの発達があるというのが理解できました。その繋がりが絶たれないように、新たな評価基準が必要になることは自然なことだと思います。先生方の苦勞と努力のおかげで救われるお子さんやご家族がいらっしゃるのだと感じました。
- ・医療的ケア児の制度的な環境が理解しやすく参考になった
- ・先進地の取り組みに刺激を受けました。ありがとうございました。前田先生の資料は印刷できますか？
- ・新しい基準づくりの困難さが伝わってきました。それでも極めて大切な基準であることがよくわかりました。
- ・基準があると医療者でなくても理解しやすいと思います。児童の基準ということですが大人にも概ね当てはまるのでしょうか？
- ・新しい基準の活用が、医療的ケア児の早期からのサービス利用につながっていくことを期待します。
- ・評価基準ができることで、いろいろな広がりを期待します。
- ・途中聞けず、残念でした。また別な機会にきかせていただきます。
- ・新評価基準を作り上げるまでの過程、興味深く聞かせてもらいました。詳しく説明して頂いて大変参考になりました。

・新評価基準を作成するにあたり、医療的ケア児とそのご家族の生活を調査されたさいの映像を観て、自分の関わっている利用者さんとそのご家族の大変さをあらためて感じました。深夜に呼吸器が外れ、アラームが鳴る前に起きて対応しているということに、寝ていてもお子さんのことを気にかけているくらいなので、母子分離の通所を利用していても休めていないのではと感じました。居宅支援もさせていただいて、通所よりも家庭に入らせていただくとよりニーズを感じやすいと思っていました。母子分離の通所はご家族にとっても必要な場であると感じますが、ご家族にお会いできるのは引き継ぎの際の短い時間で、その時間で色々な変化に気づかなくてはなりません。より支援する側も寄り添い、関わっている時間だけでなく24時間の生活を考えて、今自分ができることを行っていきたいと感じました。

・今働いていて、動けるお子さんほど見守ることが必要で、見守ることさえできれば普通のお子さんと同じような生活や体験ができていると感じています。新しい評価基準になって、行けるところが増えて生活の幅が広がっていくといいなと思いました。

・前田先生に心から感謝いたします。感覚的には誰もがわかっていることなのに、動く医ケア児の大変さをスコアにすることの難しさが伝わってきました。今後の日本の未来を変えていく画期的な話を聞くことができて感銘しました。

・寝たきりだった子が歩けるようになると、ケア度があがる。出産時の医学の進歩が医療的ケア児を増やし、母親とその医療的ケア児に行先がなくなる。という説明が目からうろこでした。行政制度がまったく対応できていない中で、課題解決に挑む皆さんに感謝です。

・医療的ケア児という障害枠ができたことにより、これまでカバーされず苦しんできた本人と家族が救われていくと実感しました。

・医学的進歩により生存できる子供が増えて生きているのに、生かされた後の支援が追いついていないと思います。ご家族の負担の軽減のためにも、現在の医療に沿った基準にしていただきたいと思いました。

・制度の狭間に生きてきた動ける医療的ケア児者、またそこを支える人々が生きやすい仕組み作りがこれからも発展していければという思いで話を聞かせていただきました。

・お子さんと向き合うお母さんの過酷な実態が、動画を通して伝わり、衝撃を受けました。こういったお母さんの日々の負担が少しでも減るよう、いろいろなことが、動いていくといいなと思いました。

・歩ける医療的ケア児は本当に増えていて、歩けると言うだけで重症分類から外れてしまうのに納得できなかった。今回のお話をきいて、医療があっても当たり前前に生活できる地域に少しでも近づける様になることを期待します。

・可視化できない部分をきちんと数値化されるまでの過程にたくさんの方々の協力（思い）がある事にとっても心を動かされました。

・退院直後から福祉サービスが使えるととても良いと思うがそれに対応する相談支援専門員の数が絶対的に足りない。相談事業所が相談支援専門員を複数人配置しても運営できるようにしないと退院直後のサービス利用はセルフプランになると思う。また医療的ケア児に対応できる知識を相談支援専門員が持たないと親御さんにとって心強い存在にはなり得ないと思った。

・重症心身障害児といわゆる医療的ケア児の福祉の問題は、立法の問題だと思います、

政治家の先生方が動いているが、この問題こそ重要だと感じました。身近に障がい者がいないと関心を持たない政治家が多すぎでなさけないです。

・在院日数の短縮化で、医療ケアがありながらも短期間での退院を目指すようになっていたため、支援が不十分なまま退院になるケースが多いと思いますが、病院看護師は支援が十分か不十分かに気付くことは出来ていません。新しい評価基準が病院でも使用されるようになれば、病院看護師もどれくらいの支援が必要なのかを把握しやすくなり、退院後の生活をイメージし、その対応が出来るようになると思います。そして家族は、退院直後から必要な支援をしっかりと受けられることに繋がるのではないかと思います。新しい評価基準を是非使用してみたいと思いました。

・超重症児スコア、が、30年前の設定なのか、と改めてびっくりしました。医療的ケアが必要な子どもが傷害として認められれば、サービスももっと使いやすくなると思いました。

・医療ケア児が、日本の医療の発展で増えてきており、そのサポートをする受け皿の地域づくりが必要であるとあらためて感じました。

・当然のことで、よく時間をかけて、証明して下さったなと感銘を受けています 医療的ケア児であれば、如実なものだと老いますが、医療的ケアのない人たちも、多動な方々について、考えていただきたいと思いました

・医療的ケア児ちゃんの居場所が増えるといいのですが、今利用している福祉サービスの職員の負担とならないようにいい関係を作っていきたい。

・制度改正について、理解することができました。

・今回の、医療的ケア児の判定基準作成に向け、医療、福祉、政治が強くつながってきていると感じた、評価表は、判断もしやすく、解りやすい。この評価表により、障害児者に対するサポートを行う方々に対する指標にもなりやすいと感じた。制度ありきではないが、この評価表により、より充実した制度が整い、障害のあるなしに関わらず、みんなが過ごしやすい社会となればいいと感じた。

・医療的ケア児という新しい基準作りが福祉だけでなく社会の基準を変えていくような気がしました。

・動ける重心児（医療的ケア児）が多くなる中で、この新評価基準が福祉業界に大きく影響してくることを楽しみにしています。また退院直後からの障害福祉の介入がもっとできるようになることを祈っています。

・重度の肢体不自由や、重度の知的障害のない医療的ケア児の保護者さんが、どのような負担や不安を抱えながら暮らしているのかが、動画やアンケート調査についてのご説明から、分かりました。ありがとうございました。

・保育士です。いつも制度の話をしていると子どもの発達ってどこ？と考えさせられますが、前田先生も戸枝さんも療育を早く受けて欲しいと話されていて深くうなづきました。早く評価基準が整い子どもたちの発達を支える仕組みがさらに深まるといいなと感じました。

・どのように評価基準を作成されたかのご苦労とその説得できるデータの取り方に納得しました。現実に医療的ケア児とご家族に対応されているからこそだと思います。実際に夜中もお子さんのケアに集中しながら生活されているご家族（寝たことはないと話さ

れる方が多い)にどのようにこの基準ができることで支援ができるのか考えていきたいと思えます。

・医療的ケア児についての理解が出来勉強になりました。女性の晩婚化での影響も有るかと思えますので、社会保障全体も視野に入れて考えないといけないと思えました。日本の医療技術の発達も要因であることに気付かされ、支援法案が出来つつあることは非常に良いことだと思えました。

・医学の進歩によって、いままでなら生きられなかったであろう子どもたちが生きているのはとても素晴らしいことである。しかし、ただ生きているだけではなく、本人はもちろん、本人をとりまく環境(人間も含めて)をしっかりと整える必要がある。まだまだ課題はあるが、介護者の「負担」と考えず、ともに暮らしてゆくという社会を実現するための一歩ではないかと思う。

・戸枝さんの医療的ケア児等コーディネーターの研修をしてもらった直後に、歩く呼吸器の児と出会い2ヶ月後に自立支援協議会で医療的ケア部会を立ち上げ、活動を続けてきています。今年度、10年前に自立支援協議会で医療的ケア児の為に作った制度を見直し、動けるケア児の動けることで起こるリスクなどを評価した医療スコア算出表を作成し、先日部会に提案をしてきました。今回の「医療的ケア児の新評価基準」は大変興味深く、加算がつく事がゴールではなく、それをやろうとする事業所やスタッフを地域で育てる事、また福祉の枠に収まらず保育園や学校もちゃんと選択肢になるような事も意識しながら多職種巻き込んで絵に描いた餅にならないよう頑張っていこうと思えます。とても、参考になりました。ありがとうございます。

・重症心身障害児の放課後等デイサービスで働いております。今日のお話は当事者として実際に体験していることが多くありました。制度のもととなる新基準が作られていく過程がとても興味深かったです。医療的ケア児支援法案が成立し、医療的ケアのある方々とそのご家族の社会的スペースが広がっていく未来が楽しみです。

・制度について福祉関係の方にも、医療関係の方にもわかりやすく説明していただき、とても学びが深まりました。また、医療的ケア児をとりまく環境が、この6年間の間で前田先生を始め、様々な方の尽力でここまで大きく改善されてきたということが、本当に感慨深いものだなと感じました。まだ法案は通ったわけではないですが、現場で子どもたちの暮らしを近くでみている者として、ますます頑張ろうという気持ちになりました。

・以前、日本財団企業家育成事業の中で前田先生、戸枝先生の講義を受けた者です。医療的ケア児は、地域にいなかったものとされてきていたと聞かされ納得した事や、これから医療的ケア児も地域で暮らしやすくなって行くのだろうと思えました。

・見守りの具体的な重要度が加わったことは、現状を正しく捉えられることだと思えます。基準化するためにはこんなにもご苦労してたくさんデータを集めない人には伝えられないのが、よくわかりました。動くようになるから大変になる、なんて、そんなこともわからないのか、と思っていましたが。誰でもが分かり、サービスが使いやすくなって、同時に母親や家族だけで見守るのではなく、医ケア児にとって養育が受けられる、育つチャンスを普通に与えられるように、新評価基準が使われることを願います。

・実証することが難しかった動ける医ケア児の親御さんの負担をしっかりと実証するための研究班の努力と熱い想いとが伝わりました。そのおかげで完成した新判定基準が実際に今後いろいろなサービスにおいてきちんと活用できて、医ケアの子たちが「当たり前」に街の中にたくさんの居場所を持っている、そんな日が来るように自分にも出来る

ことに取り組んでいきたいです！

・前田先生はじめ研究班の皆さんが、医療的ケア児の存在が認知されていなかった時からこの今回の法案の成立、医療的ケア児の新判断基準の成立に至るまで、どのように声なき声を社会に発信してきてくださったのかとてもよくわかりました。制度は国が作るものだとしても、一番近くにいる人が、目の前の人のため、また同じ状況におかれるこれからの人のために、リアルな状況を発信することの責任を感じます。前田先生のお話の中で、日本はどんな子を産んでも全力で助ける。医療技術も誇りに思える。これからは社会的な仕組みの中で、その後の生活も支援することができるようになる。という話が印象的でした。ここに至るまでの関係者の想いが集結された法案の意味を理解し、誰のための法案なのか。誰の生活を支えるための法案なのか。これまでの経緯を知ることができて良かったです。

・確か一昨年のおわりんくる一じょんで、せっかくの法改正で医療的ケア児の制度ができたのにこれじゃダメなんだ、と戸枝理事長が打ちのめされたように仰っていたのが印象に残っていました。新しい判定基準が子供たちとケアするご家族、事業者の助けとなることを期待しています。判定基準に至ったプロセスも大変勉強になりました。前田先生はじめご関係の方々に敬意を表したいと思います。

・新評価基準が作成される経過を知りありがたく思いました。後ろだてをいただいたので呼吸器を使いつつ歩けるため居場所が少なくなった5歳児のために何ができるのかどう地域を取り込むのか皆で考えアプローチしていきたいです。

・先生方とご家族の作り上げた新評価基準が、混乱なく活用できることを願っています。

・私たちの知らないところで、様々な方々が丁寧な議論を重ねてくださり、このような法案までが提出されようとしていることに、本当に嬉しさと感謝の気持ちで一杯になりました。川崎市在住ですが、小中学校には看護師が配置されるようになり、医ケア児の受け入れが寛容になりましたが、やはり呼吸器ユーザーはいまだに親付き添いでも地域校への入学は拒否され裁判沙汰にもなっていますし、もっとひどいのは医ケアがない肢体不自由の子供ですら保育園の入園を拒否されることです。娘は学校に行けても、放課後や長期休暇時に過ごす場所はほぼ皆無で家にいるしかありません。療育センターすら機能不全に陥っており、そういう子供達の居場所がなくみんな彷徨っています。新しい評価基準によって医ケア児がどこの場所でも受け入れしてもらえる体制を構築していただけると本当にありがたいです。

・重症心身障害児と動ける知的障害のない医ケア児の違いが良く理解出来ました。必要な支援の違いも初めて知り、1日も早く医療的ケア児支援法案が採択されたら良いと思いました。

・詳細を把握したかったので、資料がダウンロードできたら有り難かったです。

・現システムと現場（当事者）の隙間が、少しずつ一致して行こう！としている感じ、とても嬉しいです。「動ける医療的ケア児」の現状が良くなる様に早く制度を変えて欲しいです。光は見えてきました！感謝。

・電波が悪いのか？全く動画を視聴できなかった。音声も拾えなかった。

・医療が進んで救われた子供たちが、うまく福祉制度を受けられていないところがあったところに、これからは光が当てられていくんだなということ、そしてそこまで先生方が苦労して研究して形にしてくださってきていたことがよくわかりました。

・都合上拝聴出来ず残念でした。我が家にも呼吸器児童がおり、預かり場所や卒業後の場所がほぼ無いので心配しております。医療依存が高い子ども達にも光が当たる社会になってほしいです。

・永田町未来会議のお話など、最前線の情報が聞けてよかったです。私は、医療的ケア児等コーディネーターの養成事業に携わっております。その立場からは、前田先生と戸枝先生のご対談の最後のほうは、ちょっとショックでした。提示された図には医療的ケア児等コーディネーターが位置付けられておらず、対談の中でも、医療的ケア児等コーディネーターについては触れられていませんでした。まして、ご家族は地域の相談先につなげられないままにポンと家に帰されているというようなお話。全国的にはまだまだ現実はそんなものなのではないでしょうか。本県でも、もちろん、コーディネーターの活動にも資質にもその存在の周知にもまだまだ課題はたくさんあります。でも、このような話をする際には、必ず図の中に医療的ケア児等コーディネーターを位置付けています。コーディネーターが自ら積極的に動くことももちろん大切ですが、周知を図ることでコーディネーターに声がかかり、それによってコーディネーターが動き、ケースを積み重ねていくことで支援力が向上していくと考えるからです。今後、各所でこのようなお話をさせていただく際には、ぜひ医療的ケア児等コーディネーターのことも位置付けていただきたいと思えます。

・前田先生と研究班の方々のご苦勞の様子、特に夜中でも呼吸器が外れたアラームの前に起きてケアをされるというエピソードには、数字では測れないお母さん達の現実に心を打たれました。この問題をもっと沢山のの人に伝え理解されるために少しでも何かお手伝いをしたいと思えます。思いを同じくする人の力を終結することが、課題解決に結びつくのだと、勇気も頂くことができました。前田先生、戸枝様ありがとうございます

・医療的ケアのお子さんを育てる親御さんの立場に立った、評価基準が制度化されていくことが、子供たちの未来を変える 力になれば、と思えます。

・医療的ケアのあるお子様の状況がよく分かりました。重度のお子様であっても、障害の程度としては重度ではなくても、抱える問題はそれぞれあって、重い軽いは私自身の勝手な思いなんだと思っています。病気や障害のあるすべてのこどもの健康と生活が守られる医療・福祉の専門家がどんどん育ち、そのようなケア/支援ができることが制度として評価されることを願ってやみません。

・基準そのものが直ちに子どもたちを救うということにはならないとしても、どのような観点で評価基準を設定するのかを議論できることが大事だと思えました。その議論が、多くの人たちが医療的ケア児への関心をもつことにつながることも含めて。

・医療的ケア児の社会資源を増やすために、報酬を厚生労働省と交渉するにあたり、医療的ケアの評価基準がどのような内容で検討されているか、よく分かりました。特に家族の見守りの評価の難しさとエビデンスのためにご苦勞していただいたことがわかりました。診療報酬でなく介護報酬のために、多くの先生方がご尽力いただいたところに、先生方の退院後の子どもたちとご家族への熱い思いを感じました。どんな報酬体系になるのか、期待したいと思えます。

質問3 【第2部「在宅医療は、結局の所、街づくりだと思う～福井から軽井沢へ・進化する想い～】 ご意見ご感想をお願いいたします。（自由記述）

【自由記述】

- ・ ネット環境が良くないのか画面が固まってしまい視聴ができなくなりました。後日、後追い配信される映像を楽しみにしております。
- ・ 子ども達のいきいきした姿がよくわかりました。 利用者と支援者という関係ではなく、立場がいれかわったり、影響受れたり、相互関係があるから福祉はおもしろいなと私もいつも思っています。 ありがとうございます。
- ・ オンライン診療のくだり、苦笑しながら聞かせていただきました
- ・ 本当に、初心に帰らされた思いになりました。 自分がこの世界に入ったときに思っていた単純明快なやりたいこと、やろうとしてきたこと、だれが考えても当たり前なことができなくなっていることに恥じ入るばかりです。 できることはまだまだある。
- ・ 医療が子どもたち同士の時間を奪っている、ような先生のお考えがありました。 気を付けていきたいと思います。
- ・ とても魅力的、理想的な取り組み。 こういった企画を我々も行いたい。
- ・ 地域との連携は医療福祉関係を考えていましたが、それだけではなく様々な職種との連携する事も必要だと気づかされました。
- ・ 子どもたちの笑顔が最高だなと思いました。 当事者の暮らしのプロセスを大切にしていくこと素敵だなと思いました。
- ・ 地域医療の在り方を様々なかわり方を通して学ぶことができた。 多様な障害を持つことで将来を悲嘆している方にも朗報になるかと思いますが、医療ケアのある家族の最上級のような気もしました。 紹介のタイミングも難しいです。
- ・ 医療ありきではなく、多様な人の生き方を支えていける地域医療の在り方を今の地域で模索していきたいと思います。 姿勢が正されました。 ありがとうございます。
- ・ 紅谷先生もちろんですが、支える周りのスタッフの皆さんも素晴らしいと思いました。
- ・ 先生が一人一人の生活に寄り添った医療を実践されていることに深く感銘を受けました。 子どもたちが楽しく受診（？）していることがわかり、微笑ましく思いました。
- ・ とても素敵な街だとおもいました。 行ってみたくくなりました。 私の暮らす街も、いつかこんなふうになればよいなと思いましたし、そうなるように私も努力していかなければと思いました。
- ・ 地域の中でニーズベースで展開されている様子に刺激を受けました。
- ・ 本人が外に出ていけば、知ってくれている人が増えていく、お互いに支えあうことが増えていく、当たり前を受け入れられるところまで、毎日出ていけばいいのだなと感じた。 躊躇せずやりたいこと、楽しいことをどんどんやっていく、自分もまわりも本人もたのしむだけが前進していく術だということが体現されているなと感動しました。 ご本

人に寄り添う姿勢、自分も楽しいと思うことをやるということをやりたい！と思わせて頂きました。

- ・地域医療の概念が変わりました。人や物が無いというのは言い訳で、工夫次第で様々なことが可能となり、その結果が人との繋がりにも影響するのだと感じました。
- ・実際の医療と地域生活の結びつきがとてもイメージできた
- ・地域の力と支えてくれる医療があれば…。
- ・大変わかりやすく、そしてまた衝撃的な内容でした。大きく勇気づけられた思いでいっぱいになりました。
- ・地域福祉も街づくりだと思います。福祉関係ですが地域で思いのある医療者に出会いたいです。
- ・とても魅力的な取り組みと思いました。ぜひ見学に行ってみたいです。
- ・在宅医療という言葉はあまり使わず、地域医療という表現がふさわしいのだと感じました。地域の一員、社会の一員になってこそ、病院ではなく家で暮らす意味があると思います。そして親も子も楽しい生活・・・ですね
- ・障害があってもなくても同じ人間。個々の幸せが地域にあるといいなと改めて思った。
- ・是非、施設見学に伺いたいと思いました。これから新しく事業を始めようと動いているので、勇気と希望をもらいました。大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・写真やお話を伺い、紅谷さんの行われている注射や校内検診は自己肯定感の向上にもつながり、それが地域のつながりに強い影響を与えていくのではないかと感じました。病院が必要でなくなるくらい強い地域のつながりを経験してみたいと感じました。
- ・新たな地域での取り組みがとても素敵です！医療的ケアがあるお子さんの場合、主治医の先生との距離が近くなると、できることも広がると感じました。
- ・紅谷先生のお話はいつもワクワクします。ほっちのロジ、ぜひ見学させてください。経営者としては、これで経営が成り立つのか不思議で仕方ありません。
- ・「街づくり」は誰が何のためにやるのか？地域で困っている人の課題を少しでも周りの住民がケアできるよう、住民自身がやるべきものということでしょうか。
- ・個人のニーズが他の人へのニーズと重なり合っていったら広がっていく様子がよくわかりました。医者が一方的にならないという紅谷先生の言葉がとても印象的で、私も普段行なっている支援やものの考え方が一方的になっていないか振り返ります。
- ・医療の確保は最低限の条件。生きていくには、周りの環境はとても大切です。日本全国にこのような街づくりが進むことを望みます。
- ・ポジティブヘルスの施行をもって「自分で感じる」事の出来る健康・生活作りを支援していきたいと思います。
- ・斬新な実践事例が多々あり、聞いているだけでわくわくする内容でした。

・子供達の笑顔のために、様々な事にチャレンジしている先生にとても共感しました。放送中にもありましたが、医師の発信力はすごいと思います。私も地域に何か出来ることを考えていますが、一病院スタッフの立場ではなかなかハードルが高く（特に事務職のトップの考えを変えられなく）、先生がうらやましくも感じます。これからも、子供達の笑顔のために頑張ってください。

・たくさんの情報と知識と知恵があるからこそ、多くの方が驚くような発想をされる先生の思いをもっと伺ってみたいと思いました。

・安全を取るか豊かな暮らしを取るか難しいけど私が患者なら紅谷先生に診てもらいたい

・紅谷が最高です。これからもこの調子で頑張ってください。

・先生の取り組み一つ一つに、心が打たれました。子どもたちの満面の笑顔も印象的でした。「健康な大人」のための街づくりから、様々な形の日常生活を送る人々にやさしいまちづくり、は必要だと思います。

・軽井沢の学校の話聞いていて、しょうがい児（者）が特別支援学校ではなく、普通の学校に溶け込める社会になって欲しいと強く改めて感じました。

・発想がすばらしくて、あこがれます
これからも、注目させていただきたいと老います

・学校生活の中でも、養護学校時代の先輩の話を聴くと海外旅行、スキーなどいろんな体験をされてきたようですが、いつからか安全安心な学校生活ということが言われはじめて、いろいろな体験が選別され遊び学びに制限されてしまっていました。今まであったことが出来なくなってしまうということが寂しかったです。生活の中にチャレンジすることや、楽しみがあると、喜ぶ本人の表情を見て嬉しいし、家族とも一緒に楽しむことで介護を頑張れるような気がします。
紅谷先生がどこにもいるわけでもないのに、羨ましいと思いました。

・医療的ケア児の子供たちもいろんな経験することで、状態が良くなるということ、病気を治していくのは、くすりだけでないと改めて気づかされました。

・障害の有無にかかわらず、自助・共助・公助により個々人が出来ること（特異を生かし）地域の生活が豊かになっていくといいと感じた。紅谷先生の様なトップリーダーが各地域に居てくださると、日本全体が心豊かになれるのではないかと感じた。

・まちづくりを考える中でいろんな取り組みを見ますがやはり誰が何をやるかですね。また、皆さんの資金繰りがどのようになっているのかも気になりました。

・紅谷先生のお話以前にも聞かせてもらいました。軽井沢での新しい取り組み、うらやましい思いです。実際に写真を拝見して、子供たちが自由にその子たちらしく過ごせる様子を見て笑顔になります。無理という前に、できることから始める、自分の考えを変えていく、日々考えさせられます。

・ほっちのロッジでの取り組みや、久米山キッズケアラボの取り組みについて紹介していただき、その中で紅谷先生がおっしゃっていた「第3の居場所があり、そこでの友達・遊びがあるから、子ども達は成長する」ということがとても印象に残りました。

・ちょっと異次元すぎるお話で遠い目をしながら聞いていました。先生の様に相手目線で何が必要か考えられる支援者になりたい！100%はないというのは心に残りました。

収益を上げ継続した支援につなげるにはどうすればいいのか知りたいです。

・たいへん感激しました。ケアする側とケアされる側ではなく、様々な人が一緒にそれぞれできることで生きているという在り方を紅谷先生のお話からわかりました。戸枝先生がおっしゃったように、そこには多くの仲間と一緒に作りあげていく過程があるのでしょうか。みんなそれぞれが幸せになることがどうすればできるのかを考えさせられました。

・紅谷先生の行動力には圧倒されました。普通の医者が発想ではなく、支える側と支えられる側は役割だけのことと言う発想に感銘を受けました。

先生のような医者がどんどん増えることを祈ります。

・在宅医療にかぎらず、地域全体での福祉は必要である。

・どうしても医療依存度の高い方たちと関わっていると「やっちゃえ」みたいな思い切りが出来ない事が多いです。ただ、お母さんたちに「やらない事で後悔するくらいなら、今、この年齢でこの時にしか経験出来ない事を大切にしたい」と前向きなお母さんに達し自分が支えてもらっていると感じる事が多くなってきました。もっともって本人やご家族がその時、その時を充実して過ごせるように、福祉という狭い枠にとらわれず色々なつながりや広がり意識していきたいと感じました。

・たくさんの取り組みを拝見して、私たちが地域で次の一歩踏み出すなら、何ができるかなと思いました。

・紅谷先生のお話は、どこを切り取っても本当に刺激的で面白かったです。子どもたちとロッジに通っている間に鉄道社員が手伝ってくれるようになった話、あすかさんのプロペラ機の話・・・そのエピソード一つひとつの積み重ねが、あらゆる人や地域をハッピーにしていくことにつながることを実感しました。そして、つながるクリニックのお話。「クリニックは最終的には潰れていけばいい」と言い放った紅谷先生。カッコいいーと思いました。予防接種のエピソードも、一人の子どもの発達に、気持ちに寄り添うことの大切さを学ばせていただきました。まだまだ感じたことはありますが、私も日々の実践に生かしていきたいと思いました。

・自分の地域のいい所を探して、地域が元気になる様、講義を参考に頑張ります。

・結果ではなくて経過が人生。そして経過は複雑。確かにそうですね。枠に囚われないで本質を考えれば、みんなに優しい街になるんですね。理想だと思っていましたが、現実にはやれるんですね。私もそういう一員になりたい。

・医ケアの子も発達障害などの子どもも「特別」としてではなくその子自身に向き合っているのが紅谷先生に発言の所々に表れているなど感じました。診療が終わっても帰りたくない診療所、予防接種を打つことを自分で納得して自分で決断をする2歳児！どのエピソードも本当に素敵で「当たり前」とか「普通」の枠組みを飛び越えるとこんなにも自由な世界が広がっているのだと知ることが出来ました！

・本人が楽しそうに街歩きをしていけば、自然とバリアフリーになる。というお話が印象的でした。お一人お一人のやりたいことや、わくわくすることを、一つずつ地域の中で実現していくことが、バリアフリーにしようと思っしているのではなく、周りの人の心が動き、繋がりができ、結果として街づくりになっていく。福井の楽しいことは全部つくしたから、軽井沢に行った。いろいろ楽しいことを経験したら、そろそろ飛行機に乗りたくなったから、久米島に行った。とてもシンプルで、でも難しいこともたくさんあって、でもとびっきり楽しい、その一つ一つの事例が、心に響きました。

・医療の枠を超えて子供たちの笑顔をつくる居場所づくり、行動、行動が周りを変えていくという紅谷先生の笑顔と力に感動と元気をもらいました。子供が自分から注射を受ける気持ちになるまで寄り添うというお話もとても温かい気持ちになりました。大人か子供かとか、障害の有無とかではなく、本人の合意形成ってとても大切なのだということですね。

・インターネット診療の「おサイフをとられた話」を聞きコミュニケーションのツールで成り立つことを学びました。県内は行きつきたから県外へとおっしやっていましたが大きな野心ではなくまず住む地域を歩き自信をつけていきたいと思いました。

・周りに期待しないという先生のお言葉が、なるほどと思いました。

・ほっちのロッジのことは存じ上げておりましたが、学校との連携やその学校の状況、ロッジの在り方、先生やそのまわりにいる方々の医療的ケア児に対する思い、考え方に、深く感銘を受けました。我が家の近くにも紅谷先生がいてくれたらどんなに幸せな毎日が送れたらと思うます。自治体が地域包括ケアシステムを一時期は声高に叫んでいましたが、今ではそんなシステムあったっけ？くらいの消沈ぶりで、それも地域性なのだろうか？と勝手に思っています。都心に近い我が家はベッドタウンで通勤する方が多く、人が定着しません。紅谷先生の事業がそこまでできるのは、地方という地域性(土地も十分ある)があるからなのではないでしょうか？娘のような医療的ケアを必要とする人たちの居場所がやはり我が家の近辺にはなかなかなく、在宅ですごしていらっしゃる方が多くいると聞き、そういう方々の居場所としての施設を求めていましたが、地域の多様な方々の居場所としての施設が障害者、高齢者を含めてみんなが幸せになるという事例を見て、目からうろこでした。ただうちの地域で実現するには遠い夢のような話だとも思い、複雑な気持ちにもなりました。

・紅谷先生の取り組んでおられる様々な居場所作り、それらに対する考え方に感銘を受けました。

・取り組みの内容や考え方が大変勉強になりました。

・動画視聴できないため諦めて止めた。

・街づくりまで広げて在宅医療を考えてみたいと、私も触発されました

・都合上拝聴出来ずすみません。紅谷先生のお話聞きたかったです。

・紅谷先生のお話にはいつも引き込まれます。

・紅谷先生のお話をわくわくしながら拝聴しました。実行されていることに感動しました。「人や地域ととのつながりと工夫で、やれることからやってみる」とい初心を貫かれているお姿、心から尊敬致しました。注射について、健康診断についてなどは本質を突き根本から対応していく事の大切さを実感しました。そうした先生の考え方に感心し、常に相手の立場に立てる先生の凄さに胸襟を正さずにはいられなかったです。お忙しい日々の業務の中から、柔軟な発想を失わず進化させられる凄さにしびれました。ありがとうございます

・見れませんでした。

・とても楽しく興味深くお話を聞かせていただきました。こどもを含めた地域で暮らす人々の中に当たり前のようにあるもの、特別感のないようにあることが大切なんだろうなと思います。今はまだまだ特別なものとしての見方が強いのですが、オレンジキ

ツケケアラボのような存在がどんどん広がっていくことを期待しています。

・誕生も死去も、「家」の中から隔たれ、地域からも遠のくものになってしまっていますが、本当は私たちの生き死にのステージは、地域だよなと改めて思わせられました。長く、医療は生活を見ずと言われてきましたが、在宅医療は生活に根差して、福祉としっかり手を結ぶものだと思います。そうした歩み寄りができる医療、福祉双方の人材が望まれますね。

・紅谷先生の柔軟なニーズベースの動きにただ感心しました。制度事業は継続運営のために欠かせませんが、今の自分たちにできる柔軟なニーズベースの活動にチャレンジしていかなければと思いました。

質問4 【第3部 シンポジウム「1F看護小規模多機能・2F障害者グループホーム～共生型事業所づくりが熱い！～」】
ご意見ご感想をお願いいたします。（自由記述）

【自由記述】

- ・一番興味がある内容でした。今日は時間の都合で視聴できませんが後日後追い配信される映像を楽しみしております。
- ・参加できずすみません。
- ・今まで触れたことがなかったので、よく考えて参考にしたいと思います。
- ・こういった事業所がどんどんできれば良いですが、新しい箱では無く、住まわれない住宅や商業施設の再利用ができればと。
- ・共生型が近くになかったのですが、必要性がよく分かりました。
- ・積水の取り組みがすごいな、面白いと思いました。いつの間にか地域の人を巻き込みながらやっているのがすごいと思いました。
- ・複合型の福祉施設の紹介がありましたが、それまでの施設の方話し合いの融合の結果にできているご苦労があることが分かったが、縦割り行政の壁を壊して融合されると夢が広がるような印象でした
- ・医療的ケア児の受け入れが当たり前の”街づくり”が本来あるべき今後の地域のあり方で、そのための実践を様々聞いて刺激となりました。困りごとに周囲があわせて変わっていくこと、社会が変わること。やることはシンプルですが、そこには地域住民、行政、関係者との腰を据えた対話が大切かと思いました。ヒントをいただきました。ありがとうございました。
- ・ニーズに真摯に向き合い、既存の制度、システム、エビデンスにこだわらず、一人一人に寄り添った仕事を心がけたいと、改めて感じました。
- ・それぞれの分野だけではできることに限りがあるので、多職種連携しながらやっていかなければと思いました。障害者、高齢者、地域住民みんなが繋がりに楽しく暮らせる街を作りたいです。
- ・制度の枠を超えるエネルギーに圧倒されました。なければ創る、ですね。
- ・そもそも専門家として「関係あること」ができる。そのうえで「関係ないこと」に根拠をもって自信をもって取り組んでいける。現場が第一で、役割を果たし学ぶことスキルを付けることが、必要とされる人になるための第一歩だと思った。それ以上に人間として人間力を身に着けることが重要。現場で地域の目の前の人のために、あるものは使わないならつくる、マネジメントする。そこを目指して楽しんで取り組むことができる人が集まると強い。そのような方が集まったの議論に強く刺激を受けました。
- ・異なる複数の事業所を、同じ建物内に設置するのが難しいことを初めて知りました。会社と法人が繋がり、地域への繋がりへ発展していく流れが見えました。
- ・地域や利用者のニーズを中心に進めていくことの具体的な流れが確認できてよかった

- ・こういった取り組みが出来るようになればと思います。
- ・制度に振り回されないで、制度を理解し組み合わせて利用することが大切だと思いました。
- ・ただ、建物を作るのではなく、その建物や施設ができることが新しい地域作りにつながるということがよく分かりました。
- ・人が集まる建物、いいですね
- ・もっと友達を作りたいと思った。自分の幸せだけでなく、人が幸せに過ごせる世の中を、未来を語れる仲間が欲しいーと感じた。
- ・まちづくりとして、地域を支えていくには、どのように考えて動いていったらいいのか、勉強になりました。たくさんの仲間を作って、動いていきたいと思いました。
- ・事業所作りは活動内容だけでなく建物作りから始まっているのだと感じました。今ある建物でも環境作りを工夫して、地域とつながりやすく、風通しの良い環境作りをしていきたいです。
- ・利用者さんのニーズから始まることが第一に大切だと学びました。そのニーズを実現することが街作りにつながることもわかりました。自分の働いている場所の利用者さんのニーズをもう一度知り、1人の利用者さんのニーズを実現することをやっていきたいと思いました。
- ・30年前の理念が素晴らしく、その理念を守り続けていることがさらに素晴らしいです。ノキシタもダイノモリも素晴らしいです。
- ・行政に頼らない街づくり、私もできることから始めたいと思います。
- ・障害がある方の生活のニーズは、生活ということでは皆に共通しているため、そのエリアのニーズに答えていくこととかけ離れないんだと思いました。当たり前にある生活を実現するという視点を大事にしたいと思いました。
- ・看護機能が整っていると、安心して生活が出来ます。このような色々な設備が整っていると、障害のある方の活躍の場も共有出来て、自立にもつながるのでは。とても素晴らしいと思います。
- ・地域全体で医療・福祉のニーズを拾い上げながらボーダレスな横つながりの関係づくりができれば地域の活性化にもつながるのかと思いながらお話をきかせていただきました。今後も医療・福祉+α（いろいろな企業・業種）と繋がって、自分も周りの人々も豊かな人生になればと思います。本当にその人個人の今を知っていればエビデンスレスに対応することができるんですね。
- ・ハウスメーカーさんによるこういった福祉への取り組み事例を、これまで詳しく聞いたことがなかったので、裏側含めてとても興味深かったです。泉区の取組みはとても歴史があり、しかも年々進化しているところに感服しました。皆さんによるディスカッションは、随所に入る戸枝さんの所感コメントが素晴らしく、いちいち深くうなずいて聞いていました。Will Can Needの3つの輪は、キャリア理論ではWill Can Mustの3つで語られるのですが、Needを見て、なるほど納得でした。とてもわかりやすい図で、本日はいちばんのお気に入りです。支援が必要な人は、Needをしっかりと訴えていくことも、とても大事だと思っています。

・地域のニーズを断らないは、本当に大変苦労されたのだと思います。でも、そこに他の人のニーズも隠れていたことがよくわかりました。

・必要なものを創るための妨げが行政だと言うことが、悲しく感じました。それにも負けずに進み続けていく皆さんにたくさんの事を学ばせていただきました。

・大手ハウスメーカーもこんな風に寄り添ってもらえるとは驚き

・とても素敵な取り組みです。積水ハウスがこんなことしてるの初めて知りました。

・宮城のノキシタのような取り組みが、自分の地元や他の地域にも出来たらいいなと色々考える機会となりました、とても参考になりました。

・皆さんの、型にはまらない、必要としているところから動き出しているところに感動しました 皆さんの最後の一言の中にあっという間に、医療的ケアの重い人もグループホームに入りたい、そのためには、医療側が歩み寄ってくださるような考えを持っていることが必要です

・当事者と地域のWill Can Need の街づくりのお話、参考になりました

・人の心を豊かにし、ポジティブヘルスになるには、環境が整うことも重要であると感じた。

・思いがある方が行動するとすごいですね。感心するばかりでした。

・共生型事業所づくり、興味深い内容でした。地域の人が足を運びやすい場所に障がい者もいる。障がいがあってもなくても、居て当たり前前の場所づくりをもっと作ってほしいです。

・お話していただいた先生方が、困っている人のニーズを一番に考えて、制度に合わせるのではなく、制度の無いことは、当事者さんの困っていることに合わせて制度を作ったり、解決できる方法（クラウドファンディングや企業と協力するなど）を考えているということが、印象に残りました。

・こちらも熱いお話でした。積水のように大手企業が福祉というのは戸枝さんも話していた様に異端な気もしましたが、大手企業で働く人の中にもニーズはあることは当たり前なのにそうではないと思わせているのかもしれないですね。

・建物や施設をつくるのではなく、どう住まうか、どう街づくりをするのかは広い範囲でみんながどうしたいのかを実現していくことですね。私たちも行政もそこにたしかえることが必要かと思いました。ここちよい場所は、たいへんだという感覚を少なくするというのもとてもよくわかりました。自分の住む地域を考えると、元気で人の手を借りなくてもよい人のうちは、「地域と共生」という言葉で様々な豊かな活動に参加できますが、健康でなくなったり、障害を持ったりすると、地域にとって負担をかける人に変わってしまい、「地域のリスク回避」（と実際に言われる）のため、施設に入ることを強く勧められます。地域の共生って、どんな人も地域にいられることではないのかなと思います。そこには多くの方が「いて大丈夫」という感覚をもてる必要があるんだなと思います。

・地域での困ったことに一肌脱ぐ医者的心意気が素晴らしいと思いました。吉川理事長の理念で在宅利用者の多種多様なニーズに応えて、事業を紆余曲折の中されてこられたご苦労が良くわかります。安心して最期まで看取れる地域でのお手伝いに尽力されている姿は素晴らしいと思います。介護と医療の融合は必須だと改めて思いました。

山村課長、佐藤課長のされていることを同僚として後援したいと思っています。特にノキシタや台の森は全国ローカルエリアと一緒に広めていきたいと思います。

・楽しく暮らせることがなによりだと思う。先日、差別に関する講演をきいた際「障害があるのによくやっているね、ということは差別である」と聞いたときに自分のなかに差別感情。優越感があることがわかり、確かにそうだと思い、びっくりした。「障害者」というくくりがおかしい、ということに気付かされた講義であった。その講義のあとに目にした、皆さんの生き生きとした活動はやはり「単なる個性」であって、もっと社会で一緒に生活するべきだと思った。

・ニーズがあるからやってみる。簡単には出来ない事だと思います。実際にどんな風に生活をされているのかとても興味深いなと感じました。福祉の事業所がありきでなく、地域のコミュニティとして人が集まる。そこの一つに福祉もある。なかなか実践出来ることでは無いですが、積水さんの取り組みもすごいと思いました。

・いまはすぐ目の前の利用者さんとスタッフさんにばかり関心が向いている事業所です。本人を中心として、街づくりまでを視野に入れて活動できる事業所になっていきたいと思いました。

・吉川さんのお話、「断らない」をモットーに活動されている実践の数々、本当に素晴らしいと感じました。事業所の都合ではなく、ご本人のニーズから生まれる支援の形を見させていただき、改めて気付かされることが多くありました。積水の佐藤さんのお話も印象的でした。建物が建つまでの普段は知ることのないお話を聴かせていただきました。感動したのは、そのプロセスというか、進め方がとても丁寧で、その土地の歴史とか想いを無視しないということです。「大きくなればなるほど、小さなものが大事」と仰っていたこと、「家族で上手くいく」を支える拠点が無いと と思ってお仕事をされていることが印象的でした。建物ではなく、人なんだなと感じました。建物も人も、結末をどうする？ではなくて、人生を支えようとする、それまでのプロセスがとても大事なのだなと感じました。佐藤さんのお話にもボツは山ほどある、と。紅谷先生も、期待しすぎないでダメもとでやってみよう！と。失敗を恐れずに、また失敗をしても何度でもチャレンジをしていくことの大切さも教わりました。

・来年看多機能を始めます。とても参考になりました。

・素晴らしい実例を見れました。正直、素晴らしすぎて、どのくらいのお金がかかったんだろうと気になってしまいました。しかし、人に寄り添った物は、本当に心惹かれますね。

・福祉の世界しか知らない私にとって、福祉を飛び越えた世界の企業や医療に携わる人達が専門性を振りかざしたり、利の追及だけを仕事としているわけではなく、目の前の人の笑顔のため、またはご自身のご家族の原体験からの動機などで、熱い思いを胸に抱えてお仕事に向き合っている方がたくさんいるのだということを知りました。「私の仕事じゃないから、管轄じゃないから」と何もしないのではなく、本人を中心とした街づくりをいろんな業種の人、世代の人、事情を抱えた人たちと「ごちゃまぜ」一緒にチームを作る！！それが大切だと勉強させていただきました！

・生まれてから看取りまで一生涯、地域の中で暮らせるように。また、誰一人断らないと決めて長きにわたって事業をされている吉川さんのお話を伺い、安心を保障することの意味を考えさせられました。また、最初に始められた配食サービスから次々の事業を増やしたり、やめたり、変えられたり。法人の歴史にたくさん刻まれている資料を拝

見し、オレンジさんのお話でも感じましたが、利用者さんお一人お一人のニーズから考えて、断らないと決めたら、常にあり方が変化していくものだと感じました。あるものの中でしか物事を考えられないサラリーマン福祉とは全く違い、安心と楽しみを届けるために、まわりの人を巻き込みながら楽しんで作り上げてこられているたくさんの実践に、とても刺激を受けました。

・「生産性」「専門性」「コンプライアンス」などの言葉に縛られて近視眼的になりがちな私ですが、そもそも何のための制度か、専門性か、大事なことは何か、に立ち返って自由に発想・設計したいと思う元気を頂きました。制度があれば利用すればいい、なければつくればいいという言葉も印象的でした。

・ひとりの暮らし、生活の困りごとを解決することはその後の多くの人をも救うことになることをあらためて感じました。つながったひとを大事にする理念を持ち続けるご苦労も伝わってきました。

・足りないもの、必要な物をどんどん作ってしまうその行動力に驚きました。積水ハウスがされていることが広まってほしいです。

・吉川さん、積水ハウスの方々のお話を伺い、大変興奮しました。何か一つに特化した施設はいまや時代遅れということもまさに目からうろこでした。小さな街づくりが地域の人達がそこに集まり、障害に限らず地域の様々な問題を解決する、これぞ私が本来理想としていた”地域で暮らす”ということなんだ！と認識させられました。地域の中に施設を造ってそこで暮らすという単純な概念がひっくり返されました。障害児の親であるにも関わらず認識の低さにだいぶ反省させられました。自分の暮らす地域に娘のような人達が活動したり暮らす場がないため、自分で何か始めたいと日々悶々としていますが、今日の講義を聞いてその気持ちはますます高まりました。でも、ただ社会福祉士の資格を持っているだけの経験も無い、しがた一人の母親が、誰に相談すればいいのか？一体何から手をつければよいのやら…今度は施設を立ち上げたいけどどうしているかわからない人を後押しする、具体的なレクチャーを頂ける講義があると嬉しいです。今日ご出演された方々のもっと詳しいお話を伺いたいです。

・吉川さんの地域に根付いた取り組みが、どこの地域にでも実現出来たら良いと思いました。積水ハウスのDVDが、興味深かったです。

・新たなチャレンジをされている姿に感銘を受けました。これから共生型施設が増えていくことを願っています。

・共生型かぁ・・・。私は、グループホームと老人ホームに別々ではなく、「障害者（息子）と親（私の老後）」でも、いつまでも一緒にいたいのです。そんな施設や制度が、田舎でも普通～にあつたらいいなあ～と思います。

・動画視聴諦めた

・3部から聞くことができました。特別支援学校の保護者とういう場所があればいいのね、と話していたのがまさに共生型事業所です。すでに関東圏に存在しているなんて全く知りませんでした。息子は呼吸器児ですが人が大好きです。でも地域に知り合いも友達もほとんどいません。学校と家との往復ですし、分けられた社会にいるから。障害の有無に関係なく地域に同年代はもちろん、多世代の色々な方と交流できる場所、卒業後も過ごせる場所があればいいのにと常々思っていました。呼吸器児の母子分離を求めています学校に医療が入ることだけでも物凄く大変で気持ちが暗くなる日々でしたが、話を聞いていて久しぶりにとても楽しい気持ちになりました。こんなふうに考え

て思って動いている方たちがいる。

医療と教育が、そして民と官が肩組みあえばもっと人の生活が豊かになるのに。とても勉強になりました。ありがとうございました。

・皆さまの熱い思いが伝わってきました。

・たすけあい泉様の発足から変わらないぶれない理念、を統率され続けておられる吉川理事長を心から尊敬致しました。老後はたすけあい様のサービス地域に引っ越したいと思います。戸枝様のモデレートも秀逸でした「will/can/need」このように、ひとつひとつ整理して考えていくことが大切だと実感しました。佐藤さんの苦労話、は参考になりました。古典にある「新しく事業を始めることよりも、その事業を維持し発展させていくことの方がいっそう難しい」ということを、現場のかたのメッセージとともに学ぶ機会となりました。紅谷先生の「期待しない」とにかくやってみる、吉川先生も同様に実践して来られたその尊さを感じる事ができました。登壇者全員に感謝します。

・地域を変える街づくりを、目指したかわりには、障害や、介護、医療の枠をこえた、本来の の自然な姿であることを、改めて認識しました。

・多機能にすると縦割り行政の壁があるという戸枝さんの話に共感。医療と介護の統合とか、福祉と教育の連携とか言いながら、それを大きく阻害しているのが中央官庁ではないでしょうか。

・地域を巻き込むとき、多様性・違いをどうすりあわせるかプロセスが大事なのだと学びました。紅谷先生の「期待しない」や「100点はない。ちょっとゆずりあい、でも大きな枠組みでは満足」がいいな。と心に残りました。

質問5 今回、ライブ配信で開催し、設問の回答や講師への質問ができる機能（KK2 デジタルプレゼンテーションプラットフォーム）をご利用いただきました。今回の方式でのご参加について、またその他全体の運用でお気づきになったこと、ご意見ご感想をお願いいたします。（自由記述）

【自由記述】

- ・重い医療的ケアを持つ子供を持つ身としてこのような講座を自宅で拝聴できることとても感謝しております。また、リアルタイムで設問の結果を見たり講師に質問ができるシステムがあり、参加している感が増してぐっと内容が入ってきました。とてもよかったです。
- ・いつもありがとうございます。
- ・地方にいながらこのようなお話をタイムリーに聞くことができ、うれしく思いました。次回の障害福祉サービス等報酬改定の行方を、興味深く見守りたいと思います。ありがとうございました。都合で途中退席いたします。
- ・ライブなので、質問に対するやり取りがあればいいなと思いました。これだけの内容に無料で学べたことを深く感謝します！データも配布されていて、ありがたいです。動画チャンネルにアップされた場合は、復習してみたいと思います。
- ・いずれも運営には資金がかかります。もっとそういった事業を推進する様な永続的な支援があれば良いのですが・・・、軌道に乗る前に打ち切られない物を。
- ・このような機会を頂きありがとうございます。またこのような機会があれば参加したいです。よろしく願います。
- ・とても良い方法で受講しやすかった。
- ・参加させていただきありがとうございます。
医療的ケア児だけではなく「者」の課題も取り上げていただき勉強になりました。
- ・特にストレスなく、楽しく視聴、勉強することができました。
- ・質問をくみ取るプログラムがもう少し入っていると機能を生かせるのかもしれませんが、今日の内容的にはそこまで必要なかったかもしれません。プログラムの内容的には十分満足です。
- ・気になったときに、メモがPC上でとれて便利。
- ・リモートでたくさんの方の話が聞けて良かったです。ZOOMのように、こちらの顔出しはなく質問などすぐ送れるのは敷居が高くないで見やすかったです。ありがとうございました。
- ・学びの形として、受け止めやすいと感じた
- ・また、このような機会をいただければ、幸いです。ありがとうございました。
- ・特に問題なく、運用できていたと思います。
- ・資料が印刷できないのですが・・・こちらのPCの事情でしょうか。

- ・とてもよかった。また参加したい。
- ・ライブでのセミナー、こんなにOKだとは思っていませんでした。頻繁にお願いしたいです。
- ・質疑の時間を取ってもらいたかったが、全体的にとっても良い学びの機会をいただきました。ありがとうございました。
- ・会場への行き来の時間を有効利用できるのが良かったです。ありがとうございました。
- ・最初、冒頭、映像と音声のずれ（口パク風）が気になりましたが、途中で解消され、大変スムーズに視聴することが出来ました。長時間のプログラム、大変ありがとうございました。
- ・リアルタイムで、回答をしていただけるのが面白いと感じました。
- ・パワポの資料が事前にダウンロードできるとよい
- ・途中で音声がモノラルからステレオに変わったりしましてびっくりしたです。会場のマイクでPAを拾ってしまう場面があったので、発言者マイクはoffにしましょう。
- ・最後の方で（時間切れだったからでしょうか？）まとめが、聴講できなかったのは残念でした。ライブ配信での取り組みを今後も続けていただきたいと思います。これまでの「どこかの街に出かけて対面式の研修会」からweb開催@自宅は、とても貴重です。でも、4時間半のライブ配信は、（途中で休憩もありましたが）ちょっと長いように感じました。ありがとうございました。
- ・動画が何度も止まってしまったので、原因を知りたいと思いました
岩手から参加することができているのも、オンラインだからで、感謝しています
これからも、よろしくお祈りします!!☒
- ・ズームやチームスでの配信よりもライブ感がありよかった。質問や、アンケートも分かりやすく、視聴もしやすかった。子どもの権利を保障し、発達の可能性に向け評価指標や、制度が整い、障害児者やご家族の方々の選択肢が広がり、本人含め、家族が意思決定できるような社会に向け少しでも力にれるといいな～と感じた。
本日は、貴重な講演をありがとうございました。
- ・最初の映像と声のタイムラグやモニターによる音声の調整が大変でしたね。お疲れさまでした。戸枝さんが話しているときのスタジオの登壇者リアクションが見れると面白そうかなと感じました。勉強になるふわりんくるーじょんでした。
エビ、エビ、エビデンスー最高でした。
- ・ライブ配信とても助かります。コロナ禍だからこそ発展したのですが、育児中のママさんにはありがたいシステムです。ライブ配信でありながら質問もできるのはリアルタイムで学びを深められ、一体感もあり面白いと思います。
- ・時々ソファで横になりながら休憩時間に掃除機をかけながら最初の開会の言葉にあった通りリラックスしながら聞いていました。質問と返答をもう少し聞きたかったです。
- ・とてもよいと思いました。本日の企画をしていただき、感謝します。
- ・豊田理事長の取りまとめはわかりやすく素晴らしかったです。

一部画像が途切れたり、最後まで拝聴出来なかった事が非常に残念でした。

・質問と選択肢が消えてしまうので、使いづらい。

・自分自身がまだWebでの研修になれていないので、その機能をちゃんと活用できませんが、アンケートを配信中に集計して表示するなど画期的と感じました。

音声、画像などは快適でした。ありがとうございました。

・今回がWEB研修、初参加です。初参加でも困ることなく参加することができました。

・ありがとうございました！！

今回スタジオでお話される方が多かったので、とてもスムーズに視聴できました。

また、公開が楽しみです☆ひとつだけ、設問についてですが、視聴者は設問が公開されるタイミングがわからないので、今だと項目が紹介される前に番号を押してしまうので、間違っって押してしまうこともあるのかな、と感じました。

・コロナ禍ですので、自宅で安心して受講できました。

資料も前もって見る事が出来、よかったです。

また、この様な研修会が有れば参加したいです。

・初めてこのような企画に参加しましたが、遠方でも参加できることは何より良いと思います。ありがとうございました。ただ、パソコンでしたが画質がはっきりせず、画面でのパワーポイントが見にくいのは残念でした。資料がPDFで先に手元に用意できるとよかったですと思いました。

・iPadをモニターに繋いで拝見しておりました。映像も音声もとてもよく全くストレスなく視聴できました。戸枝理事長の進行、語り口のおかげで4時間半が短くすら感じられました。ありがとうございました。

・ライブ配信で貴重なお話を聞けありがたく思います。昨年の会場で感じた講師の方々の熱は伝わりにくかったです。

・とてもスムーズな進行で、接続も操作も簡単でしたし、良かったです。

・娘が医療的ケア児で父親が亡くなり母子家庭ゆえ娘を預けられる人がいない、コロナ禍において、マスクができない娘を外に連れて行くことが難しいという状況で、家で子供のケアをしながら視聴できたことは、大変良かったです。

・自宅にいながらにして参加出来るのはとても良かったと思います。私は医ケア児との関わりは今までなかったので、知るきっかけになりました。会場に出向く勉強会だったら関係ないからと参加してないと思うのでこのような機会はありがたいと思います。

・全く視聴できなかったので今後改善して欲しい

・あまり質問が出ては無かったです、双方向でオンラインでできるのは共良い仕組みだと思います

・霞ヶ関ナレッジスクエアは素晴らしい設備です。ときめ細かなフォローを頂けるので、様々なかたが利用できる場であると思いました。スタッフ皆様のきめ細やかなフォローも頂けますので安心して取り組みます。皆様に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

・シンポジウムでは、（小さくてもよいので）シンポジスト全員の顔が画面にあると、

シンポジウム感があって良いのではないかと思います。